



市民と創る知の拠点～第11回サイエンスカフェ開催～



2021年10月12日(火)18時30分より、第11回サイエンスカフェ「市民と創る知の拠点」というタイトルで、本学看護学科 播本雅津子教授にご講演をいただきました。

平日の夜でしたが39名の皆様にご参加いただき、特に今年度は駅前交流プラザ「よろーな」で開催することができ、講演後には市民の皆様と直接意見交換を行うことができました。

播本教授は開学以降、保健師の育成に尽力され、本学より道内外に多くの保健師を輩出されております。

ご講演はまず「本学の特徴：地域で暮らし、地域がキャンパス」という内容からはじまり、「現在の授業方法と学生の様子」、「本学開校からの大学の歴史と学生の声」、最後に「コロナと共存、今後の展望」についてお話しいただきました。

ご講演後の意見交換では、普段見えにくかったコロナ禍での本学学生と教職員の様子が本講演により伝わり、今後もこのような機会を持つことの重要性についてご意見を賜りました。

また、終了後のアンケートにおいても、「地域がキャンパスで他の大学にはない特徴であるとの説明には感銘を受けました」、「市民の熱意で大学が継続したことをあらためて、うれしく感じました」などの感想が寄せられました。ご参加いただきました皆様、播本教授、ありがとうございました。

(看護学科准教授 安藤千晶)



推薦図書コーナー

『ペスト』カミュ著、宮崎嶺雄訳 新潮社 825円(税込)

コロナ禍の影響で、カミュの『ペスト』(1947)がベストセラーに。疫病ペストが蔓延し、街がロックダウン。病に倒れる人、逃げ出す人、闘う人、さまざまな人間像が描き出される。出版されて70年以上経つが、コロナ禍を経験中の私たちにはあまりにリアルな設定の小説。岩波文庫から新訳も出版されている。

(教養教育部教授 小古間甚一)

